

鳥山隆三教授の業績

松本, 達郎
九州大学理学部

<https://doi.org/10.15017/4706149>

出版情報：九州大学理学部研究報告. 地質学. 12 (1), pp.1-8, 1974-10-15. 九州大学理学部
バージョン：
権利関係：

鳥山隆三教授の業績

松本達郎

Academic records of Professor Ryuzo TORIYAMA

Tatsuro MATSUMOTO

Abstract

Academic records of Professor Ryuzo TORIYAMA are concisely described on the occasion of his retirement on October 10th, 1973 from Kyushu University.

For about thirty-five years Dr. TORIYAMA has devoted himself to the study of fusulinacean fossils from Japan and other areas of eastern Asia. The outstanding contributions among others are the systematic descriptions of fusulinaceans from the Akiyoshi Limestone of southwest Japan, that of the same group from Thailand (with other coworkers) and the zonation of the Carboniferous and Permian of the same regions. Professor TORIYAMA took fine leadership in the long-term oversea collaborative research project in the palaeontology of Southeast Asia and distinguished editorship in the serial publication of the Geology and Palaeontology of Southeast Asia, vols. 1-15.

序

鳥山隆三教授は九州大学理学部に30年間に及び永く勤務されたが、昭和48年10月10日退官された。退官記念事業として、別に欧文論文の大きな出版が計画されているが、ここには和文で、同教授の略歴ならびに業績表を添えて、その学術上の功績を記す。

略歴表・業績表の作成については、首藤次男博士と早川惺子嬢の注意深い助力をいただいた。記して謝意を表す。功績については、客観的事実に基づく記録に加えて、先生を知る者一同の気持を代表するように留意したが、学問的の評価の仕方や、教室の歴史的発展についての見解については、かなり私見がはいっており、その文責は執筆者たる松本にあることを、おことわりしておく。

功績の概要

鳥山隆三教授は、1937年3月東京帝国大学理学部地質学科を卒業、同年4月加藤武夫先生の推薦により姫路高等学校(旧制)に就任、当初は講師、後(1938年)同校教授として、教鞭をとられ、7年間にわたり多くの若い学生を教えられた。約1年間岡山の第六高等学校(旧制)の講師をも兼ねた。教鞭をとるかたわら研究に従事、とくに1939年には東大に内地留学し、恩師

小林貞一先生のもとにフズリナ(古生物学的研究を深めた。1944年1月九州帝国大学助教授に任ぜられ、理学部地質学講座(現在の層序学講座)の今野円蔵教授、今野教授が東北大学に御転任後は後任として赴任された立岩巖教授の下で、研究と教育に従事した。その後東京大学に転任された立岩教授の後任として、1954年2月教授に昇任されたが、1955年3月、地質学第一講座担任から、同第四講座の担任に変わった。(創設以来第四講座を担任していた松本が、同時に第一講座に変わった。また地質学第四講座は、内容的には地史・古生物学の分野であったが、1963年4月以降は古生物学講座と名称が変更された。)1973年秋退職されるまで、鳥山教授は古生物学ならびに層序学の分野で多大の研究業績を挙げるとともに、学生と若い研究者の教育・指導に力を尽され、わが地質学教室の発展だけでなく、広く学界の進歩に大きく寄与された。

鳥山教授の研究業績は添付目録のように多数ある。その最初は“山口県豊浦郡の地質”と題し、東大卒業論文の研究を要約したものであって、小林貞一教授の西南日本中生代の構造発達史の総括的研究の一環としてとくに貢献している。これを例外として、業績の大多数は古生代後期の有孔虫類たるフズリナ類の古生物学的研究ならびにこれに基づく石炭系・二疊系の層序学的研究に終始している。とくに、山口県秋吉台の石灰岩層群について、同層群産のフズリナ類を分類し、多

数の属種を識別するとともに、それらの層序的産出を明らかにし、化石帯区分を設立したのは、同教授が最も力を注いだ業績である。この成果は西南日本の上部古生界の区分・対比の規準たるに止まらず、アジアにおけるフズリナ化石層序の一つのレファレンス・スケールとして国際的にも重視されている。またこの成果に基づいて、秋吉台の地質構造に関する従来の説を修正し、独自の見解を示し、この方面のその後の研究発展への土台を築いた。このほか四国・北上山地など日本の他の地域のフズリナを記載したが、中でも北上産の異常に大型な種類は、秋吉産の異常巻きの *Akiyoshiella* とともに、古生物学的に興味深いものである。

鳥山教授は、フズリナ研究開始のころからすでに、日本に近隣の大陸産化石に注意を払い、いくつかの研究発表を公表していた。1944年には今野教授とともに内蒙古の調査に赴いた。とくに1962年以来、小林貞一東大名誉教授の提唱する東南アジアの古生物学的研究に、諸大学の協同研究者とともに参画し、数回にわたる海外学術調査に研究代表者として、主導的役割を果たした。この長期プロジェクトの研究発表は叢書 *"Geology and Palaeontology of Southeast Asia"* として、すでに13巻にわたり出版され、続いて第14・15巻の原稿も集まって、そのあとの計画もできている。小林貞一先生とともに、この大部の出版物の編集・刊行に尽された鳥山教授の努力は特筆すべきである。そして自からは、勘米良亀齡博士らの協力者とともに、タイ国産のフズリナ化石の古生物学的記載とこれによる化石帯区分を行ない、またこれに基づいて、タイ・マレーの石炭・二畳系の対比と層序の総括を試みた。1974年度の九大理学部紀要には、Permian fusulines from the Rat Buri Limestone in the Khao Phlong Phrab, Sarabri, Central Thailand の大作が出版される予定であり、また *"The Carboniferous and Permian Systems in Thailand and Malaysia"* を上記 *Geol. Palaeont. Southeast Asia* の第15巻に投稿済である。これらは鳥山教授の九大在職中の最終数年の研究発表を集大成したもので、国際的にも重要な貢献である。

以上のように研究を進めるかわら、鳥山教授自身ならびに多くの研究者の成果をまとめて、日本のフズリナ化石帯を記述した大作を、九大理学部紀要(1967年)に著わし、また1971年夏カナダ国カルガリー大学で開催された「二畳系・三畳系とその境界問題」に関する国際シンポジウムに出席、上部二畳系のフズリナ化石帯について総括的論文を発表した。これは

1973年に出版されている。

内外の文献を広くわたり、高い程度の専門的知識を消化して、これをわかりやすく記述することは、鳥山教授のすぐれた才能の一つである。その具体例としては、新版「古生物学Ⅰ」(1973年朝倉書店)の中の「フズリナ類」、微古生物学上巻(1970年朝倉書店)の中の「フズリナ類」、改訂新版「地史学上巻」(1967年朝倉書店)の「第9章二畳紀」、*"Geology of Japan"* (1963年東大出版会)の「4 Permian」を挙げることができる。これらが学術の振興・普及に貢献したことは申すまでもない。

鳥山教授の研究生活の中には、後進の者の学ぶべき点が少なくない。少しもきばらずに楽しそうに研究しておられるが、いつの間にか大きな論文ができ上がっていることや、大勢の研究者のそれぞれの持ち味を活かして、総合的な大部の研究発表をまとめあげたのは、先生のご趣味の音楽・オーケストラに通じる何かがあるように思われる。鳥山教授が戦後まだ日本の経済力の弱い1950年、在外研究を計画され、ひどい船に乗って渡米し、ウィスコンシン大学の M. L. THOMPSON 教授の下に Research Associateとして、1ヵ年フズリナの古生物学的研究と勉学を実施し、名実ともに第一級の実力を身につけて帰国し、本格的に秋吉石灰岩フズリナの研究に取り組んだことにも敬服している。またこの秋吉の研究が大成し、その成果が広く認められて1959年に西日本文化賞を受賞した際にも、その副賞を九州大学に寄付して、秋吉奨学金を設けられた。これは物価上昇の今日その金額は学生諸君から見れば誠に少額であるかもしれないが、先生の励ましのお心持を有難く受けて、勉学にいっそう身を入れていただきたいと念願する。

戦後間もなく、秋吉台が在日米軍の演習場の候補地に挙げられた時には、鳥山教授は米国の古生物学者を含む関係者と直ちに連絡をとり、この学術上かけがえない重要な場所を守ることに奔走され、演習場化することを防いだ。そしてらさに関係者を説いて、秋吉自然科学博物館の設立にまわっていただいた。地質学・古生物学だけでなく、動物学・植物学・考古学・第四紀学・地形学・地下水学・洞窟学など、秋吉台の自然を素材として研究し学習する人たちは、今までも将来もきわめて多いと思うが、鳥山教授の上記のような奔走のお蔭によるといっても過言ではない。

THOMPSON 教授の1960年におけるフルブライト交換教授としての来日(九大鳥山研究室にて受け入れ)をはじめ、鳥山教授の専門に関連して、海外から九大



R. Toriyama

を訪問した学者も少なくなく、これを通じて国際学術
支流上に挙げた功績も銘記すべきである。

末筆となったが、鳥山教授の学内・学外における役
職の面での功績を略記する。学内にあっては、学生部
参与、付属図書館商議委員、印刷所商議委員、海外学
術調査委員、九州大学評議員などを歴任し、大学の運
営に尽力された。教室では主任を何回かつとめられた。
また教室の図書、中でも紀要と海外の出版物との交換
の拡大について、非凡な能力を示され、また理学部図
書室が九州大学付属図書館内に合流するに際しての改
革的な諸懸案については、理学部図書室運営委員会委
員長として、忍耐強い努力を重ねて、新規則の下に運
営されるまでに進められたことなど、とくに記録して
おきたい。

九大理学部在職中に、教養部、教育学部、広島大学、
熊本大学、東京大学、福岡大学、福岡女子短期大学の
非常勤講師として、広く専門教育および一般教養ある
いは理科教育に貢献した。

学外にあっては、日本古生物学会評議員、日本地質
学会評議員、日本学術会議古生物学研究連絡委員会委
員、東京地学協会評議員、秋吉台科学博物館顧問など
として、学術の振興に寄与した。また福岡県文化財專
門委員、福岡市文化財専門委員、福岡県自然環境保全
審議会委員として、専門的識見をもって指導の役割を
果たした。他方昭和22年以来21年間にわたり、九州大
学音楽部長として、九大フィルハーモニー・オーケス
トラの育成に尽力され、NHK 学生音楽コンクール審
査員、福岡ユネスコ協会常任理事として、地方音楽文
化の向上・発展にも多大の寄与をした。

以上、鳥山隆三教授の功績を記し、これをたたえるとともに、永年のご尽力に対して深く感謝の意を表す。同教授は九大退職後、福岡大学の正教授として教鞭をとられるとともに、ますます研究にいそしんでおられる。九大名誉教授としても、たびたび私たちの教室にも来訪され、その豊富な経験から後進に示唆を与えらるとともに、若い世代の発展の様子を見守っていただきたい。

鳥山隆三教授略歴

大正3年7月22日東京に生れる

学歴・資格

昭和9年3月 第八高等学校理科乙類卒業
 “ 12年3月 東京帝国大学理学部地質学科卒業
 “ 28年6月 理学博士（主論文：Geology of Aki-yoshi）

職歴・併任

昭和12年4月 姫路高等学校講師
 “ 12年9月 第六高等学校講師（併）
 “ 13年3月 姫路高等学校教授
 “ 19年1月 九州帝国大学助教授，理学部勤務
 “ 28年12月 熊本大学理学部講師（併）
 “ 29年2月 九州大学教授，理学部地質学第一講座担任，大学院理学研究科指導教官
 “ 30年3月 地質学第一講座担任を免じ地質学第四講座担任
 “ 30年8月 熊本大学理学部講師
 “ 31年4月 九州大学教育学部講師（併）
 “ 32年1月～同38年3月 九州大学分校講師（併）
 “ 36年10月 東京大学理学部講師（併）
 “ 38年4月 地質学第四講座担任を免じ古生物学講座担任，大学院理学研究科担当
 “ 38年10月 九州大学教養部講師（併）
 “ 40年4月 “ “
 “ 40年4月 古生物学講座担任を免じ古生物学講座担当
 “ 43年4月 九州大学教育学部講師（併）
 “ 47年4月 “ “
 “ 47年7月 九州大学評議員（併）
 “ 48年10月 九州大学教授辞職
 “ 48年10月 福岡大学教授，理学部勤務

嘱託・委員

福岡商工局（炭田開発調査）（昭和22年～昭和28年）
 日本学術会議古生物学研究連絡委員（昭和26年～昭和

47年）

福岡県文化財専門委員（昭和30年～）
 福岡市文化財専門委員（昭和48年～）
 福岡県自然環境保全審議会委員（昭和47年～）
学会役員
 日本古生物学会評議員（昭和32年～昭和41年）
 日本地質学会評議員（昭和28年～昭和29年）
 東京地学協会評議員（昭和46年～）
 日本地質学会西日本支部長（昭和49年～）
 東南アジア古生物研究会幹事〔Secretary General, Association of Palaeontological Research in Southeast Asia〕（1967～）
 国際地質学連合層位学委員会委員〔IUGS. Commission on Stratigraphy〕（1972～）

鳥山隆三教授 (Prof. Ryuzo TORIYAMA)

業績目録

論文

- 1938: 山口県豊浦郡の地質. 地質学雑誌, 45, (533), 247-258.
- 1941: A Fusulinid Fossil from Chin-chou District, Kuangtung Province. *Jour. Geol. Soc. Japan*, 48, (579), 106-108.
- 1941: The Carboniferous Foraminifera from the Sosan District, North Heian-Dô, Tyôsen. *Jour. Geol. Soc. Japan*, 48, (579), 109-112.
- 1942: Some Fusulinid Fossils from Keigen District, North Kankyô-Dô, Tyôsen. *Jour. Geol. Soc. Japan*, 49, (580), 115-117.
- 1942: The Fusulinids of the Yasuba Conglomerate in the Province of Tosa. Studies on the Yasuba Conglomerate and its Allies in the Chichibu (or Titibu) Group in the Island of Shikoku, I. *Japan, Jour. Geol. Geogr.*, 18, (4), 237-247.
- 1943: (with M. MINATO) *Pseudoschwagerina* Vorkommen in Kirin Formation (Mandschurei). *Jour. Geol. Soc. Japan*, 50, (601), 312-313.
- 1943: (with R. СНОН) The Discovery of Fusulinids in the Island of Hainan. *Proc. Imp. Acad. Tokyo*, 19, (9), 587-590.
- 1944: The Fusulinids in the Limestone Conglomerates of the Sakuradani Area in the Province of Awa. *Studies of the Yasuba*

- Conglomerate and its Allies in the Titibu Group in the Island of Sikoku-II. *Japan. Jour. Geol. Geogr.*, **19**, (1-4), 67-82.
9. 1944: On Some Fusulinids from Northern Tai. *Japan. Jour. Geol. Geogr.*, **19**, (1-4), 243-247.
 10. 1945: The Fusulinids in the Limestone Conglomerates of Inomine in the Province of Tosa: Studies on the Yasuba Conglomerates and its Allies in the Titibu Group in the Island of Sikoku-III. *Japan. Jour. Geol. Geogr.*, **20**, (1), 1-11.
 11. 1947: On the Fusulinids in the Yasuba Type of Limestone Conglomerate in the Kwanto Mountainland: Studies on the Yasuba Conglomerate and its Allies-IV. *Japan. Jour. Geol. Geogr.*, **20**, (2-4), 33-39.
 12. 1947: On Some Fusulinids from Tosayama, Kôti-ken, Sikoku, with a Note on the stratigraphical range of *Neoschwagerina*. *Japan. Jour. Geol. Geogr.*, **20**, (2-4), 63-82.
 13. 1950: 紡錘虫科有孔虫の最近の研究について。I. 鈎物と地質, **3**, (6), 234-237.
 14. 1951: 紡錘虫科有孔虫の最近の研究について。II. 鈎物と地質, **4**, (3-4), 130-135.
 15. 1952: Permian Fusulinids from the Kitakami Mountainland, Northeast Japan. *Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ.*, Ser. D, Geol., **3**, (3), 127-156.
 16. 1953: New Peculiar Fusulinid Genus from the Akiyoshi Limestone of Southwest Japan. *Jour. Paleont.*, **27**, (2), 251-256.
 17. 1954: Geology of Akiyoshi, Part I. Study of the Akiyoshi Limestone Group. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D, Geol., **4**, (1), 39-97.
 18. 1954: Geology of Akiyoshi, Part II. Stratigraphy of the Noncalcareous Groups Developed around the Akiyoshi Limestone Group. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D, Geol., **5**, (1), 1-46.
 19. 1954: A Gigantic Fusulinid Species from the Kitakami Massif, Northeastern Japan. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan*, N.S., (15), 179. 182.
 20. 1957: 秋吉台の地質。秋吉台学術調査報告書, 1-36, 山口県教育委員会。
 21. 1958: Geology of Akiyoshi, Part III. Fusulinids of Akiyoshi. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D, Geol., **7**, 1-246.
 22. 1960: 紡錘虫類の分類 (試案)。化石, (1), 34-48.
 23. 1961: Fusulinid Zones of East Asia. *Proc. Ninth Pacific Sci. Congr.*, 1957, **12**, Geol. Geophysics, 250-253.
 24. 1963: (with H. FUJIMOTO) A Survey of Fossils from Japan Illustrated in Classical Monographs, Part III. Revision on "Carbonische Foraminifera aus China und Japan von C. SCHWAGER. *Palaeont. Soc. Japan*, 25th Anniv., 5-7, pls. 13-16.
 25. 1964: (with T. SATO, T. HAMADA and H. IGO) Stratigraphy of Peninsular Thailand. Report on the Stratigraphical and Palaeontological Reconnaissance Survey in Thailand and Malaysia, 1963-1964. *Overseas Technical Cooperation Agency, Ref.* (20), 41-54.
 26. 1965: (with T. SATO, T. HAMADA and P. KOMALARJUN) *Nautilus pompilius* drift on the West Coast of Thailand. *Japan. Jour. Geol. Geogr.*, **36**, (2-4), 149-161.
 27. 1967: The Fusulinacean Zones of Japan. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D, Geol., **18**, (1), 35-260.
 28. 1967: タイのラブリ石灰岩。地学雑誌, **76**, (4) = (759), 13-20.
 29. 1968: (with K. KANMERA) Fusulinacean Fossils from Thailand, Part II. Two New Permian Genera from Thailand. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, **4**, 29-44, Univ. Tokyo Press.
 30. 1969: (with K. KANMERA) Fusulinacean Fossils from Thailand, Part III. *Maklaya*, New Generic Designation for *Neoschwagerinids* of the Group of *Cancellina pamirica* LEVEN. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, **5**, 31-46, Univ. Tokyo Press.
 31. 1969: (with K. KANMERA and R. INGAVAT) Fusulinacean Fossils from Thailand, Part V. *Neofusulinella* from Thailand. *Geol.*

- Palaeont. Southeast Asia*, 7, 15-32.
32. 1971: Upper Permian Fusulinian Zones and Phylogeny of Staffelloidea. *Bull. Canadian Petrol. Geol.*, 19, (2), 366-367.
 33. 1971: 上部二畳系のフズリナ化石帯. 九州大学理学部研究報告, 地質学, 11, (1), 77-86.
 34. 1973: (with K. PITAKPAIVAN) Fusulinacean Fossils from Thailand, Part VII. Middle Permian Fusulines from Wat Kirinakrataram, Central Thailand. *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, 12, 43-61, Univ. Tokyo Press.
 35. 1973: (太田正道他と共著) 秋吉石灰岩の逆転構造の再検討. 地学雑誌, 82, (3), 1-21.
 36. 1973: Upper Permian Fusulinian Zones. In LOGAN, A. & L. V. HILLS (ed.) The Permian and Triassic Systems and their Mutual Boundary. *Canad. Soc. Petrol. Geol. Mem.* 2, 498-512.
 37. 1974: (with K. KANMERA, S. KAEWBALDHOAM & A. HONGNYSONTHI) Biostratigraphic Zonation of the Rat Buri Limestone in the Khao Phlong Phrab Area, Saraburi, Central Thailand. *Geol. Pal. Southeast Asia*, 14, (in press)
 38. 1974: The Carboniferous and Permian Systems in Thailand and Malaysia. (As Chairman of Carboniferous-Permian Research Group) *Geol. Palaeont. Southeast Asia*, 15, (in press).
 39. 1974: Fusuline Fossils from Thailand, Part IX. Permian Fusulines from the Rat Buri Limestone in the Khao Phlong Phrab, Saraburi, Central Thailand. *Mem. Fac. Sci., Kyushu Univ.*, Ser. D, (in press)
- 著 書
1. 1963: (with F. TAKAI, T. MATSUMOTO & others). *Geology of Japan*. Univ. Tokyo Press.
 2. 1967: 二畳紀. 地史学上巻, 254-305, 朝倉書店.
 3. 1970: フズリナ類. 微古生物学上巻, 201-259, 朝倉書店.
 4. 1973: フズリナ類. 古生物学, 1, 95-117, 朝倉書店.
- 調査報告書 地質案内書 短報等
1. 1946: 本溪湖及び牛心台の黄旗統産腕足類化石について. 地学雑誌, 52, (613-615).
 2. 1952: 直方東方地域地質調査報告. 通産省炭田開発事業総合報告, (九州編).
 3. 1955: 津屋崎町北方海岸の化石. 福岡県文化財調査報告書第18号, 天然記念物.
 4. 1961: (高須洋一, 浦上六郎と共著) 熊本県天草地区調査報告. 九州地方天然ガス開発利用調査報告, 天然ガス鉱業会.
 5. 1962: (村田正文と共著) 秋吉台の古生界. 日本地質学会第69年総会地質巡検旅行案内書.
 6. 1965: 秋吉台の古生物と地質. 日本地学教育学会, 地質見学案内書.
 7. 1971: (太田正道と共著) 秋吉台. 地質見学案内書, 秋吉台科学博物館.
 8. 1971: 東南アジアに発達する赤色盆地の地質学的古生物学的研究について. 学術月報, 23, (11) = (295), 49-55.
 9. 1971: 「東南アジア古生物の研究」についての記録. 地学雑誌, 80, (1) = (781), 18-35.
 10. 1971: 「二畳系—三畳系国際会議」報告. 地学雑誌, 77, (11), 756.
- 解説記事その他
1. 1953: フズリナ. 理科事典, 15, 平凡社.
 2. 1957: 秋吉台の化石と地質構造. 国立公園, (81), 16-19, 国立公園協会.
 3. 1967: 古生物地理学的にみたタイ国の風土. 日本熱帯医学雑誌, 8, (1), 10-11.
 4. 1973: (太田正道, 佐田公好と共著) 日本のフズリナ化石「秋吉台石灰岩, 帝釈石灰岩」. 日本化石図集, 31, 築地書館.
- 編集刊行物
1. 1966: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 2, Univ. Tokyo Press.
 2. 1967: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 3, Univ. Tokyo Press.
 3. 1968: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 4, Univ. Tokyo Press.
 4. 1968: (with T. KOBAYASHI) *Geology and*

- Palaeontology of Southeast Asia*, 5, Univ. Tokyo Press.
5. 1969: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 6, Univ. Tokyo Press.
 6. 1969: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 7, Univ. Tokyo Press.
 7. 1970: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 8, Univ. Tokyo Press.
 8. 1971: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 9, Univ. Tokyo Press.
 9. 1972: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 10, Univ. Tokyo Press.
 10. 1973: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 11, Univ. Tokyo Press.
 11. 1973: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 12, Univ. Tokyo Press.
 12. 1973: (with T. KOBAYASHI) *Geology and Palaeontology of Southeast Asia*, 13, Univ. Tokyo Press.